

「夏枯れ」 どこ吹く風一日米株価が8月に高値を更新

S&P500は8月に3回、TOPIXは先週4回で過去最高値を更新

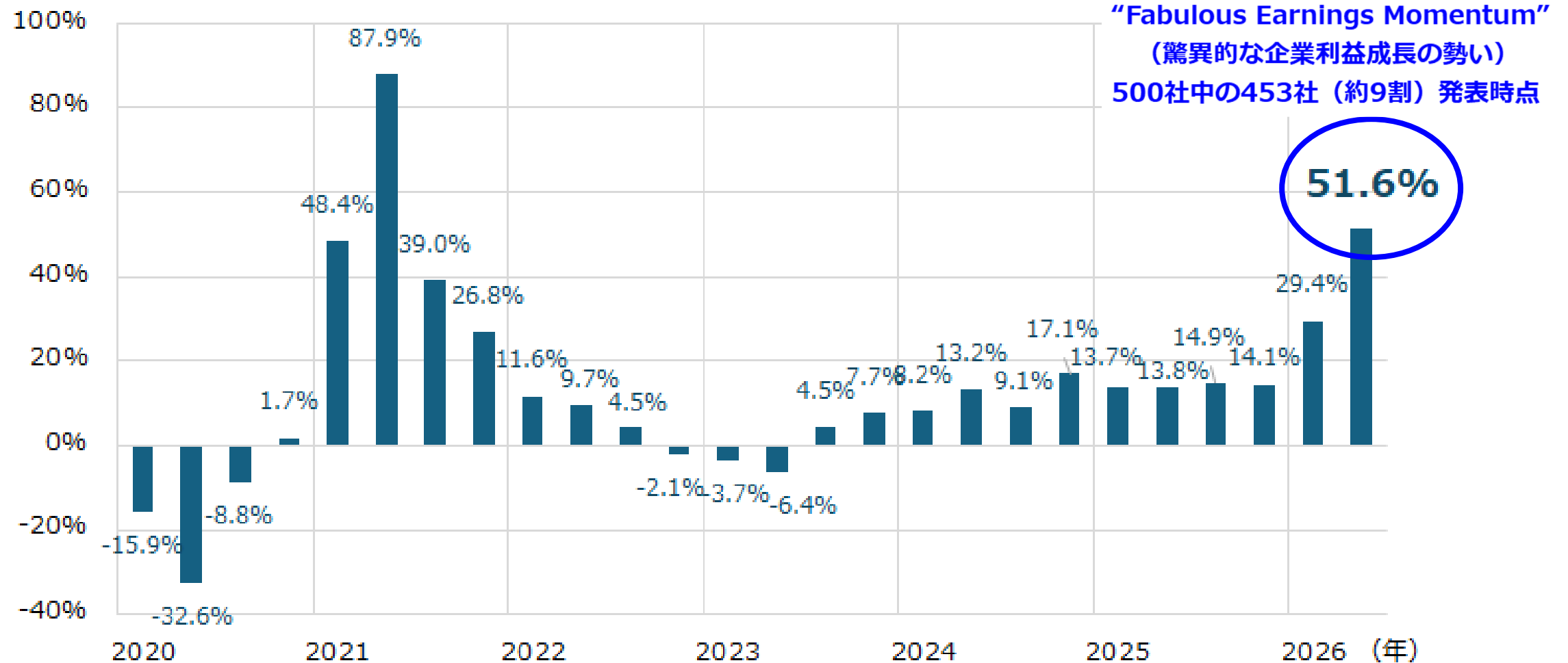
米国株価と日本株価の推移（2020年初以降）



米国株はFOMOからFEMO (Fabulous Earnings Momentm)

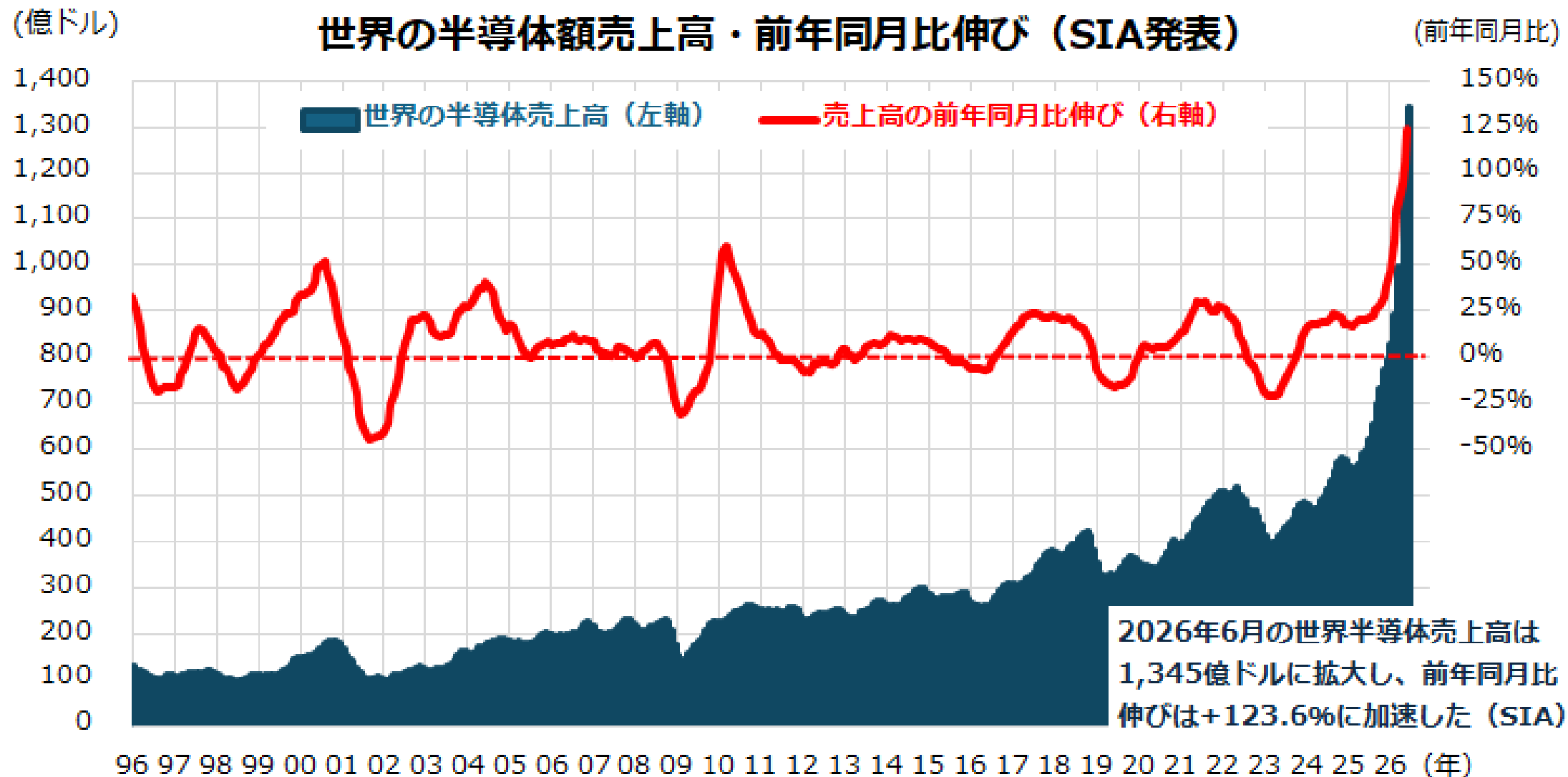
S&P500構成銘柄の4～6月期利益は、EPSベースで前年同期比51.6%増益(14日時点)

S&P500構成銘柄の四半期別増減益率（実績）と26年第2Q発表経過



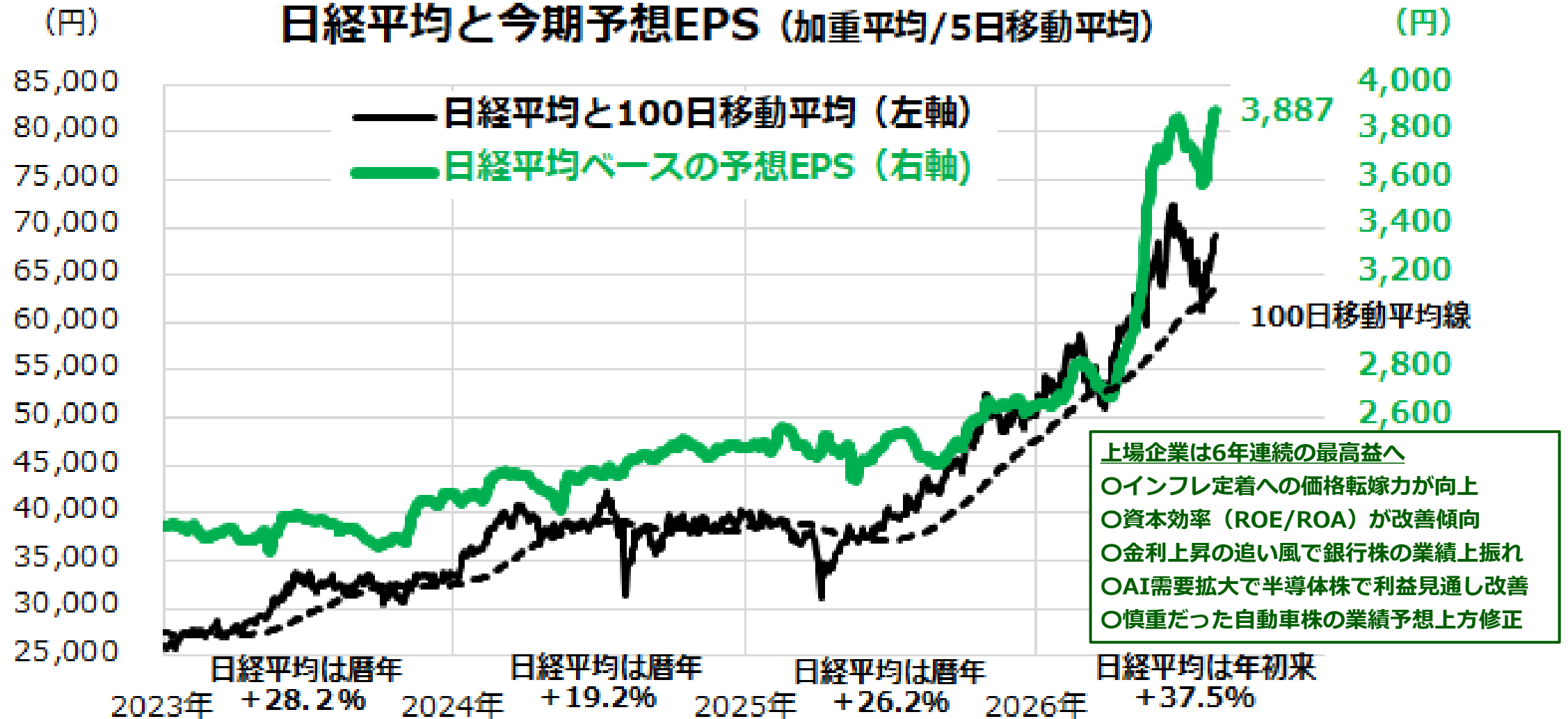
半導体売上はAI向けが牽引し過去最高を記録

6月の売上高はAI需要で1,345億ドル、伸び率は123.6%へ成長加速



業績拡大が株高を牽引—日経平均の予想EPSは最高益

6月期決算を受け、半導体・部材、自動車、金融を中心に業績見通しが上方修正



(出所) 日経平均プロフィール、予想EPS (時価加重平均) = 日経平均採用銘柄の時価総額合計 ÷ 予想純利益合計 (会社予想 + アナリスト予想平均)

食品消費税1%：初の消費税減税で家計支援と成長へつなぐ

8月5日に閣議決定（高市与党・衆院選圧勝の公約＝給付付き税額控除導入までの2年限定の設計）

自民党内の抵抗勢力（減税反対派）や主な野党が「財源がない」と反対を表明

財源（案）：①当初予算の歳入増＋②税込上振れ＋③税外収入＋④歳出見直し＋⑤乗数効果期待

必要な財源

年 約5兆円

（2年間で約10兆円）

* 高市首相「特例公債には頼らない」
* 片山財務大臣「2年限定なら、一時的な増収・税外収入を活用する余地あり」
→ 秋の臨時国会で法案提出へ

財源を支える歳入増加要因

① 前年度比＋約6兆円

2026年度当初予算の歳入規模（約84兆円）からの税込増加（過去5年平均では＋5.3兆円）

② 歳入上振れ見通し： ＋1兆円＋α（業績好調）

③ 税外収入：約9兆円？ （外為特会・日銀納付金等）

④ 租税特別措置と補助金の 見直し（日本版DOGE）

家計効果＋乗数効果→歳入増

年約7.7兆円へ

価格下落→家計負担を軽減

負担減→消費増→企業売上・所得増→追加消費へ波及（乗数効果）→
名目GDP拡大 → 歳入増
（債務残高の対GDP比は上昇せず）